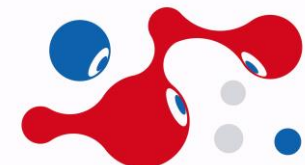
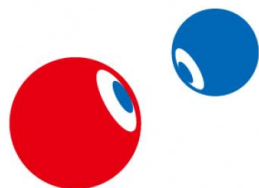


宿泊施設の衛生対策



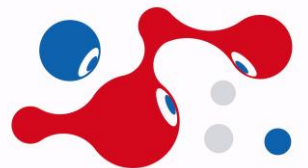
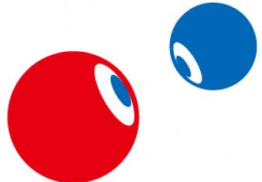
本日は、特に気を付けていただきたいことなど主に2点をご紹介します。

内容

① 衛生自主管理点検表

- 点検表の活用方法
- 各点検項目の説明
 - (1)寝具の清掃・保管
 - (2)洗面所やトイレの管理
 - (3)宿泊者名簿
 - (4)周辺環境への保持・安全対策
 - (5)共同浴場、浴室の管理
 - (6)宿泊拒否

② 行政からの連絡

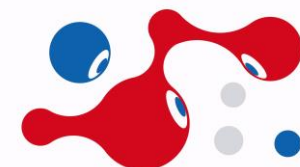


衛生自主管理点検表



こちらの資料をご確認ください。

衛生自主管理点検表のデータは、
府のHPにも掲載しています



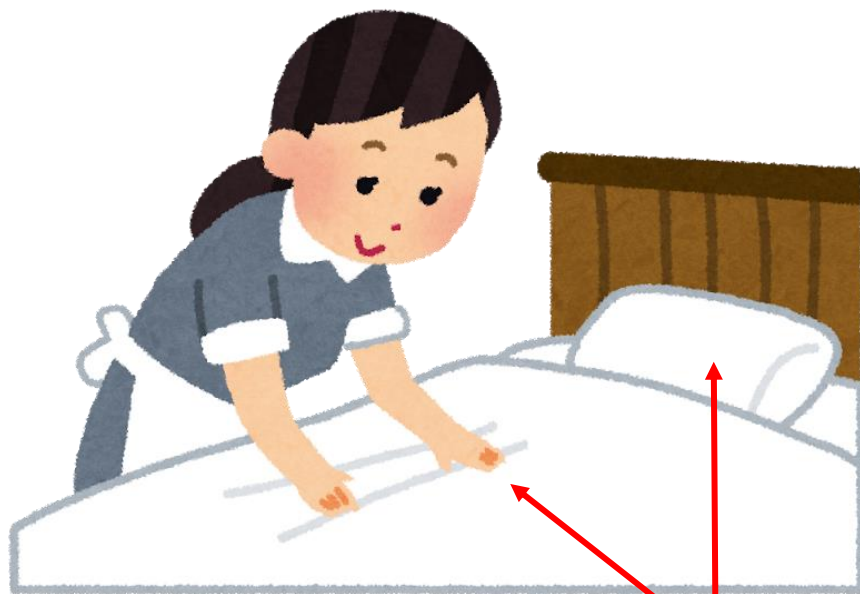
～点検表の使用方法～

①施設として必要な項目を☑する

該当項目	項目	内 容	必須項目	1月	2月	3月	4月	5月
	営業者の責務	特定感染症のまん延の防止に必要な対策を適切に講じるため、また特に配慮を要する宿泊者に対してその特性に応じた適切な宿泊に関するサービスを提供するため、従業者に対して必要な研修の機会を与えているか。	▲					
	施設の周囲	施設の周囲は、毎日清掃を行うとともに、大掃除を定期的に行っているか。						
		ねずみ、ゴキブリ、トコジラミなどの衛生害虫が発生、生息していないか定期的に点検を行っているか。						
		周囲の排水溝は、定期的に清掃を行っているか。						
	施設一般	施設設備は、定期的に清掃し、必要に応じて補修・消毒を行っているか。						
		廃棄物の処理について、分別や収集、処分など処理体制を整えているか。	☆					
	宿泊室	くず入れを備えているか。	▲					
		客室の飲食店の器皿は、清潔で衛生的なものを置いているか						

②実施した日付を記入する。
例 1/15、2/16

～寝具の管理～



シーツ・枕カバーなどを
保管する場所は、
適切に清掃し、常に清潔か

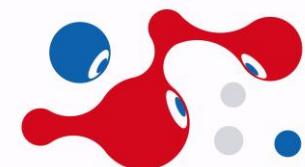
手前のカートに使用後のシーツ類をいれ、
奥のワゴンで未使用のシーツを管理



未使用のシーツ類を床に置かず、
ラックの上で管理



寝衣・シーツ・布団カバー・枕カバーなど
直接人に接触するものは、宿泊者1人ごとに
洗濯したものと交換しているか。
同じ宿泊者の場合は、寝衣は毎日、その他
寝具は、少なくとも3日に1回の交換をして
いるか。

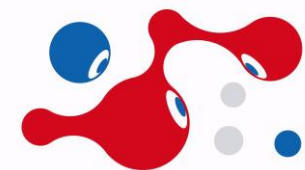
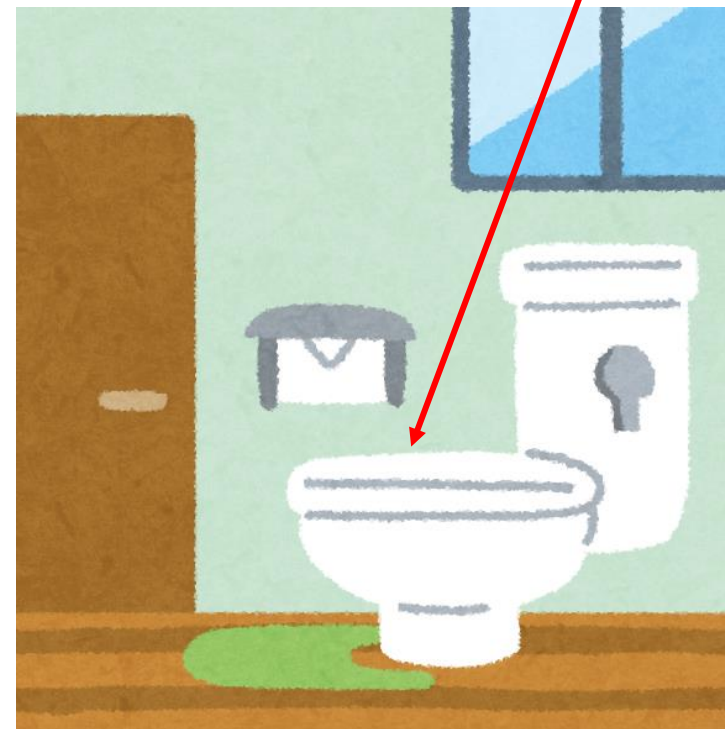
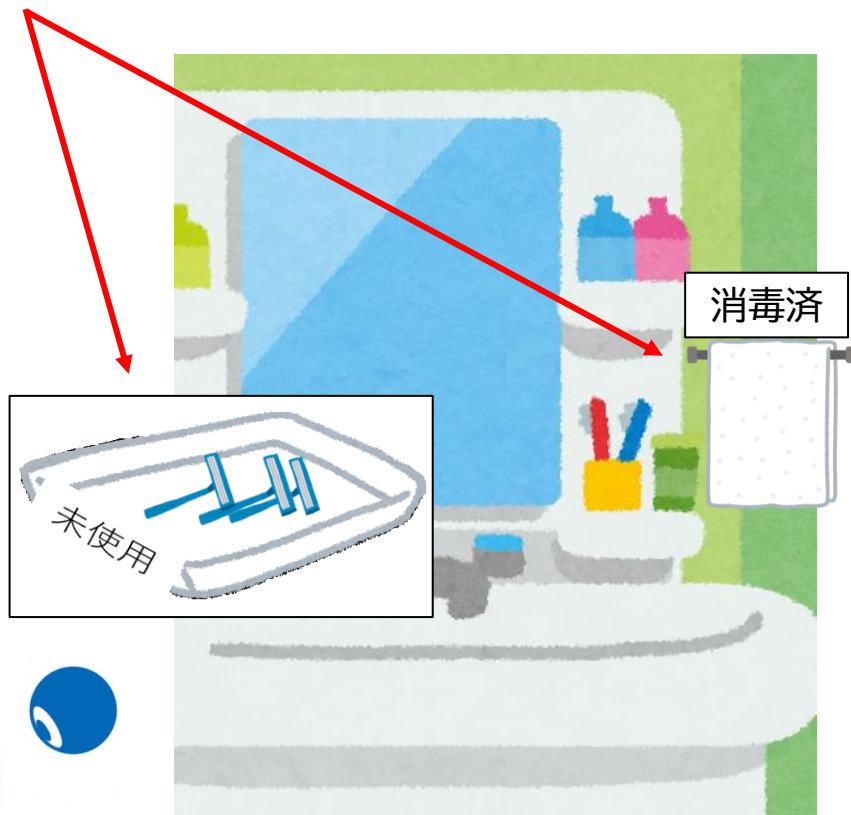


～洗面所やトイレの管理～

タオル・くしを備える場合は、宿泊者1人ごとに消毒するなど衛生的なものを置き、消毒済のものと使用後のものを区別し、その旨表示しているか。

カミソリを備える場合は、新しいものを備えているか。

トイレ
清掃:1回/日以上

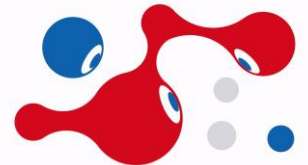
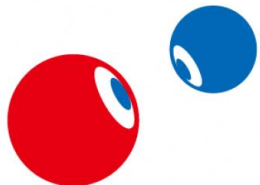


～宿泊者名簿～

宿泊施設 または 営業者の事務所で**3年間保存**

＜宿泊者名簿に記載が必要な項目＞

旅館業法	特区民泊	住宅宿泊事業
氏 名		
住 所		
国籍及び旅券番号 (日本国内に住所を持たない外国人の方のみ)		
連絡先	連絡先	(連絡先)
	滞在期間	職業
		宿泊日



【旅館業法施行規則 第4条の2】

宿泊者名簿の正確な記載を確保するための措置を講じた上で
作成し、その作成の日から3年間保存

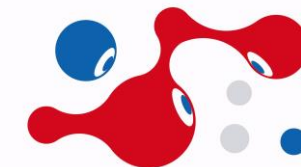
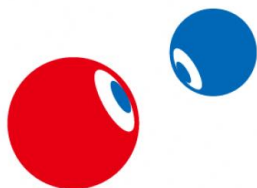
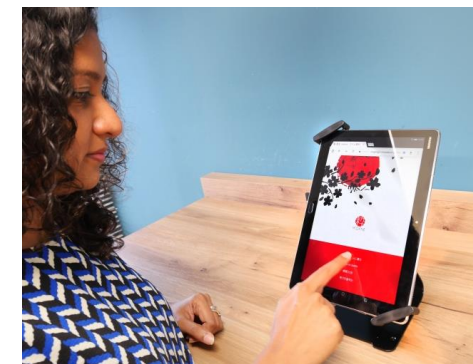
「正確な記載を確保するための措置」 ➡ 本人確認をすること

本人確認方法として、

- 〔・対面確認が基本
- 〔・同等の手段として、ICTを活用することも可能

【活用できるICT（情報通信技術）の条件】

- ✓ 宿泊者の顔、旅券が画像により鮮明にリアルタイムで確認できること
- ✓ 画像が施設の近くから発信されていること



～周辺環境の保持・安全対策～

周辺住民からの苦情

☆ 宿泊者の騒音(特に夜間の騒音)

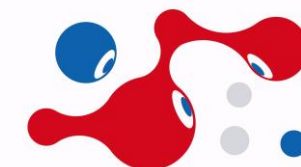
☆ ごみ・たばこ関係(施設周辺へのポイ捨て、喫煙場所)



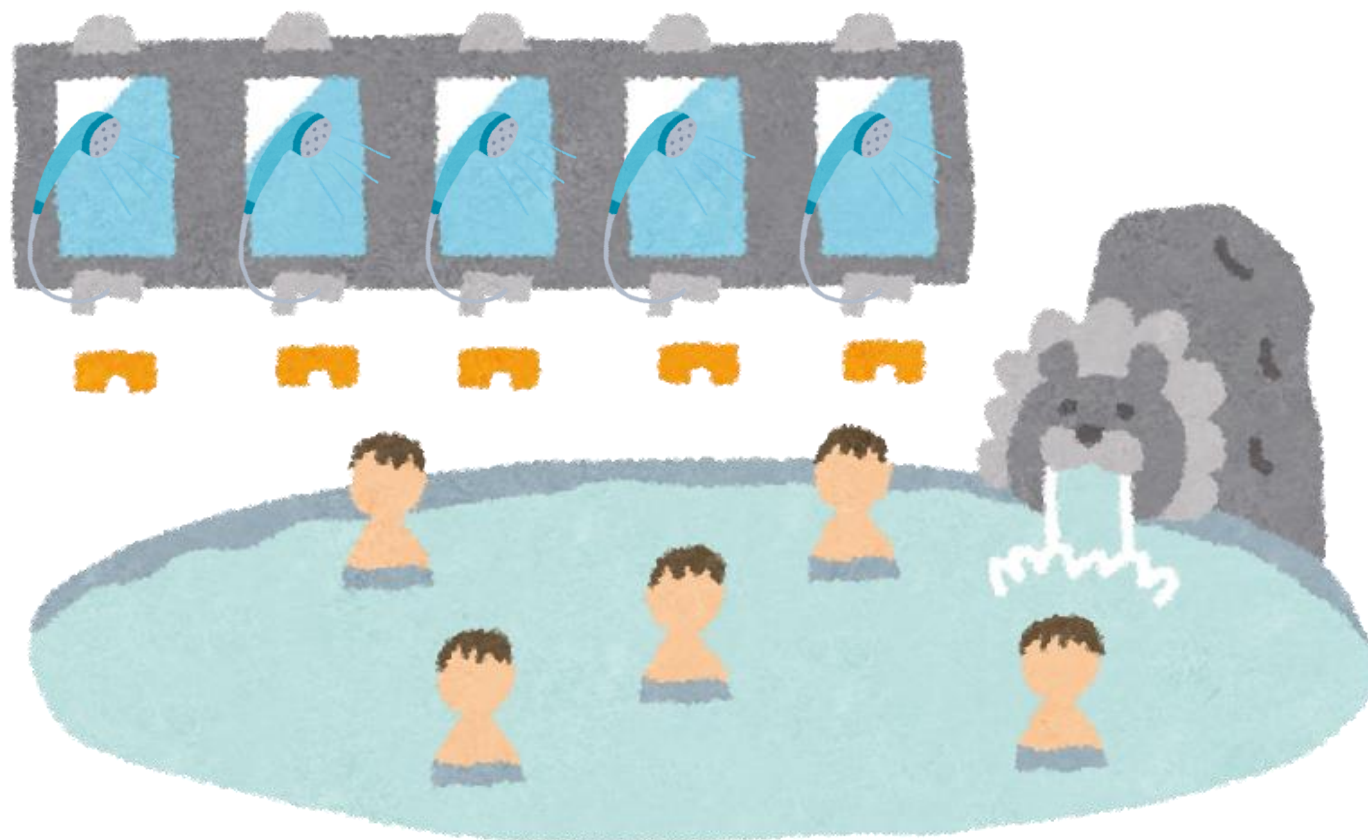
- ➡ ・予約受付の段階から、騒がないことや室内でのごみ捨て厳守、決められた場所での喫煙を呼びかける
- ・周辺住民からの苦情・問い合わせには24時間適切かつ迅速に対応できるように体制を整える

予約時の宿泊人数以上の人が滞在していたケースも・・・

- ➡ 定期的(特に長期連泊)に施設と宿泊者を確認する



～共同浴場の管理～



増殖に適した環境
(温度、水分、栄養源)

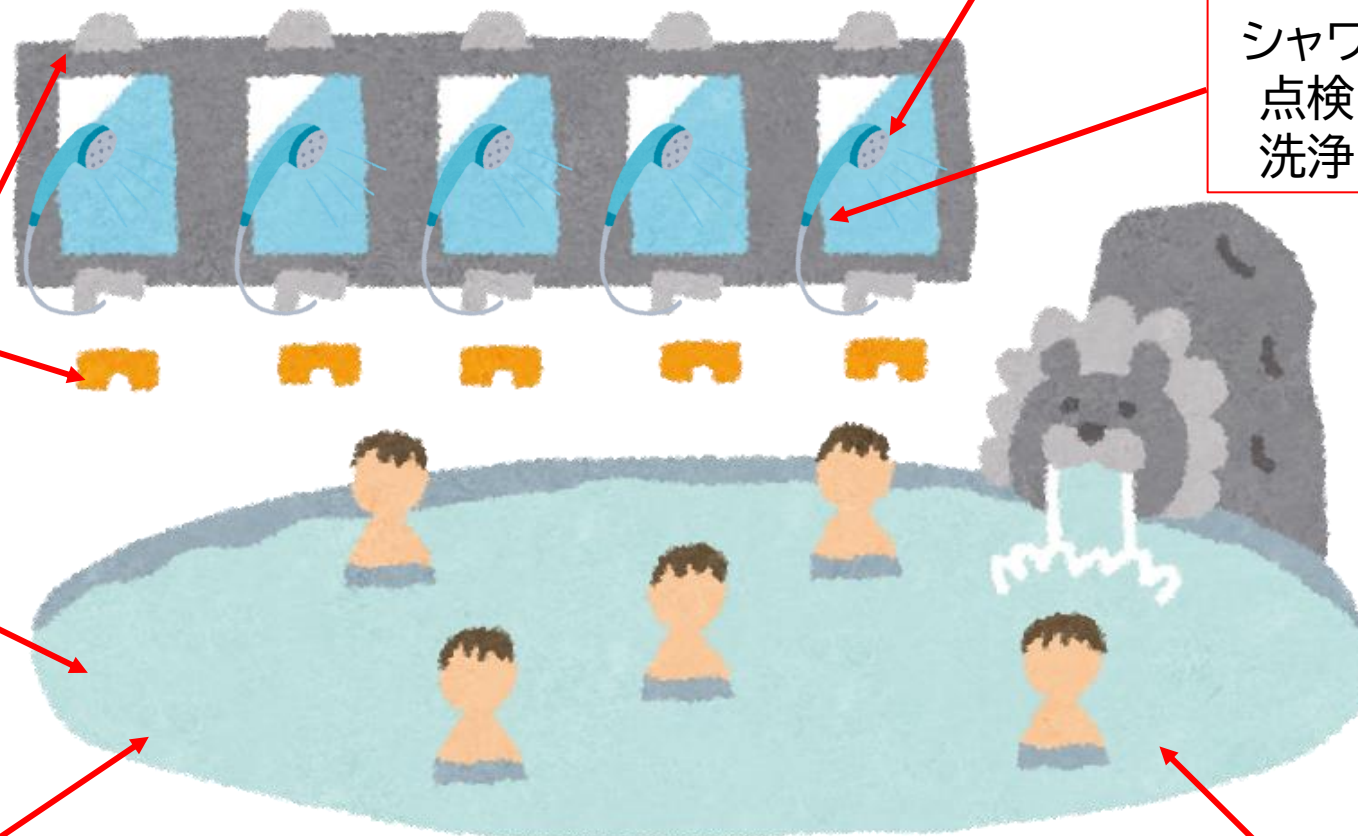
微生物が侵入

微生物が増殖
浴槽や循環配管の内壁や継手部分な
どにバイオフィルム(生物膜、ぬめり)
を形成

バイオフィルム(生物膜、ぬめり)の中
で病原性微生物(レジオネラ属菌など)
が増殖

レジオネラ属菌を含んだしぶきを吸い
込むことで病気発症

～共同浴場の管理～



シャワーの内部の水が
置き換わっているか(通水)1回/週

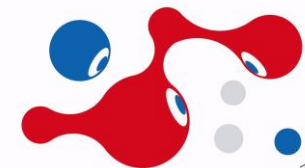
シャワーヘッド・ホースは、
点検:1回/6か月以上
洗浄・消毒:1回/年

洗いおけ、腰掛は
毎日清掃しているか

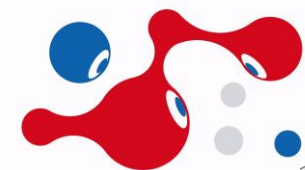
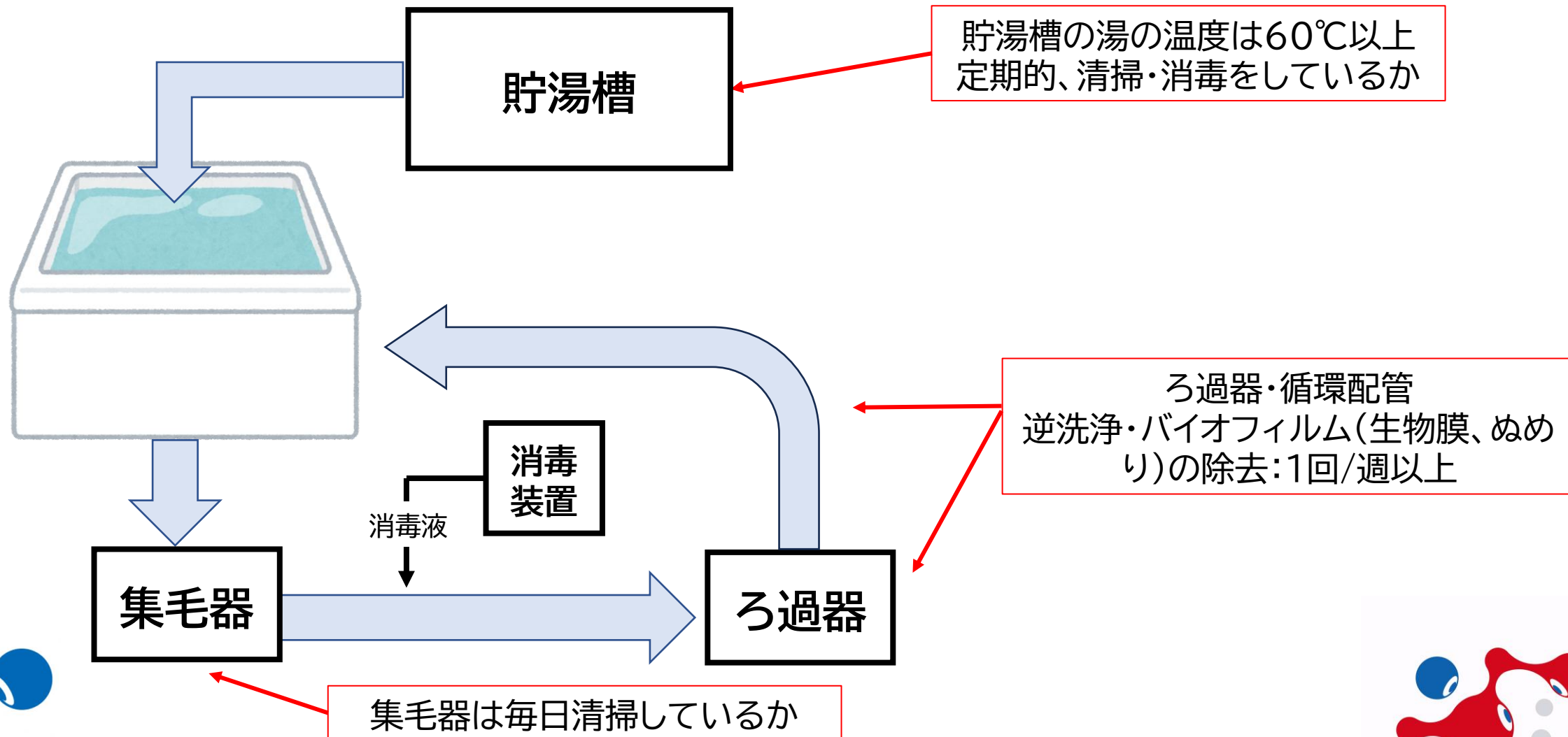
浴槽は十分な湯(水)
で常に満杯か

毎日完全換水しているか
(ろ過循環している場合は、1回以上/週)

遊離残留塩素濃度
0.4mg/L以上か



～共同浴場の管理～



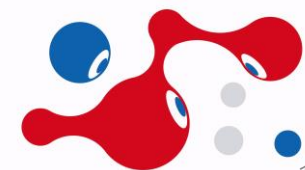
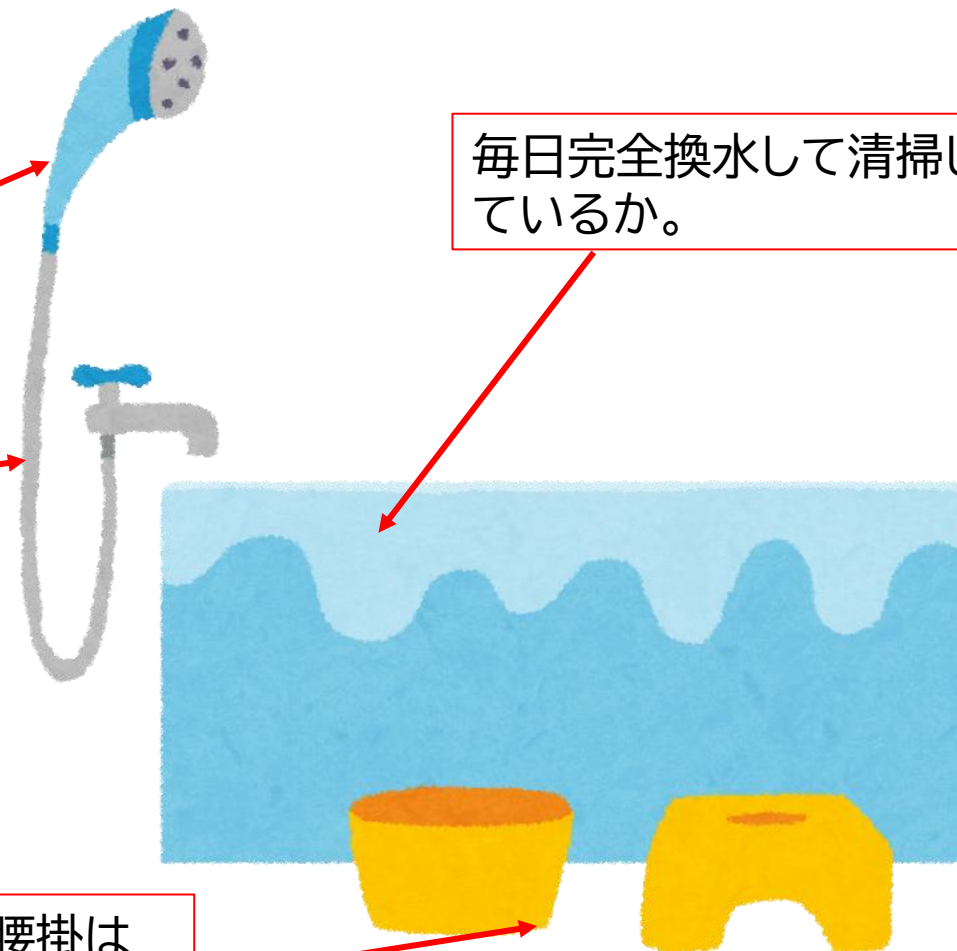
～浴室の管理～

シャワーの内部の水が
置き換わっているか(通水)1回/週

シャワーヘッド・ホースは、
点検:1回/6か月以上
洗浄・消毒:1回/年

毎日完全換水して清掃し
ているか。

洗いおけ、腰掛は
毎日清掃しているか



～宿泊拒否（旅館業法の改正関連）～

「旅館業法の許可施設は、特定の場合を除き宿泊を拒むことが出来ません」

【宿泊拒否の制限について】（旅館業法第5条第1項）

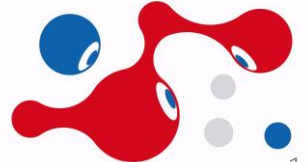
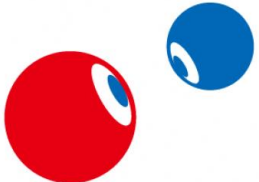
宿泊しようとする者が、

第1号 特定感染症の患者等であるとき

第2号 賭博その他の違法行為又は風紀を乱す行為をするおそれがあると認められるとき

第3号 宿泊しようとする者が、営業者に対し、その実施に伴う負担が過重であつて他の宿泊者に対する宿泊に関するサービスの提供を著しく阻害するおそれのある要求として厚生労働省令で定めるものを繰り返したとき

第4号 宿泊施設に余裕がないときその他都道府県等が条例で定める事由があるとき



～宿泊拒否（旅館業法の改正関連）～

旅館業法の許可施設は、特定の場合を除き宿泊を拒むことが出来ません

【宿泊拒否の制限について】（旅館業法第5条第1項）

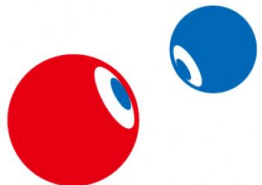
宿泊しようとする者が、

第1号 特定感染症の患者等であるとき

第2号 賭博その他の違法行為又は風紀を乱す行為をするおそれがあると認められるとき

第3号 宿泊しようとする者が、営業者に対し、その実施に伴う負担が過重であつて他の宿泊者に対する宿泊に関するサービスの提供を著しく阻害するおそれのある要求として厚生労働省令で定めるものを繰り返したとき

第4号 宿泊施設に余裕がないときその他都道府県等が条例で定める事由があるとき



旅館業法における「特定感染症」

改正 前：伝染性の疾病にかかっていると明らかに認められるとき
改正 後：特定感染症の患者等であるとき

「特定感染症」とは

1 類 感 染 症

2 類 感 染 症

新型インフルエンザ等
感 染 症

新 感 染 症

指 定 感 染 症 ※

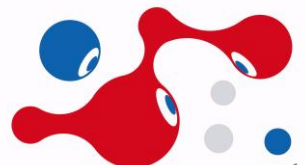
※指定感染症は、感染症法の入院、宿泊療養又は自宅療養に係る規定が準用されるものに限りま。

- ・特定感染症が国内で発生している期間を国が宣言したとき宿泊拒否が可能です。
- ・新型コロナウイルス感染症は、令和5年5月8日をもって五類感染症に移行しているため、「特定感染症」に該当しません。

【宿泊拒否した場合の記録について】

書面 または 電磁的記録を作成した日から3年間保存

内容: 宿泊を拒んだ日時・理由・拒否された者及び対応に係る責任者の氏名



～宿泊拒否（旅館業法の改正関連）～

旅館業法の許可施設は、特定の場合を除き宿泊を拒むことが出来ません

【宿泊拒否の制限について】（旅館業法第5条第1項）

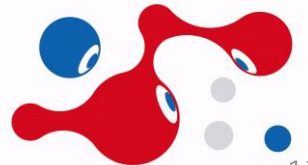
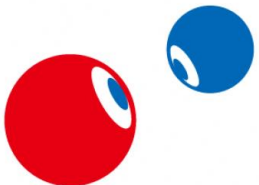
宿泊しようとする者が、

第1号 特定感染症の患者等であるとき

第2号 賭博その他の違法行為又は風紀を乱す行為をするおそれがあると認められるとき

第3号 宿泊しようとする者が、営業者に対し、その実施に伴う負担が過重であつて他の宿泊者に対する宿泊に関するサービスの提供を著しく阻害するおそれのある要求として厚生労働省令で定めるものを繰り返したとき

第4号 宿泊施設に余裕がないときその他都道府県等が条例で定める事由があるとき



拒否事由に該当しない例

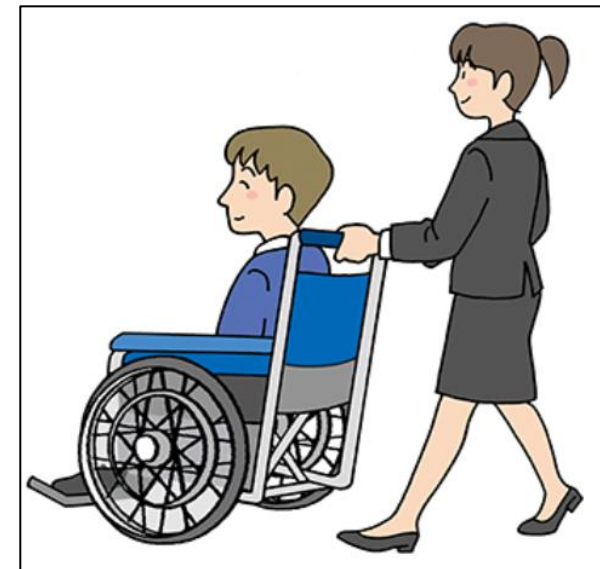
筆談の求め



身体障害者補助犬の同伴



車いすの補助



【厚生労働省のホームページより抜粋】

拒否事由に該当する例

不当な割引、契約にない送迎等、
過剰なサービスの要求



対面や電話等により、長時間にわたり、
不当な要求を行う行為



【厚生労働省のホームページより抜粋】

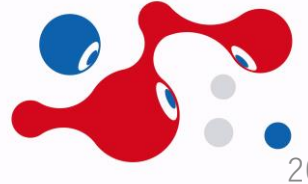
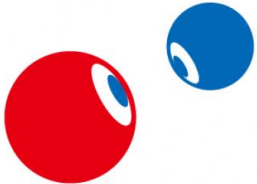
【宿泊拒否した場合の記録について】

記録方法・保存期間： 書面 または 電磁的記録を作成した日から3年間保存
 〈内容〉 宿泊を拒んだ日時・その理由・拒否された者及び対応に係る責任者の氏名
 宿泊を拒むまでの経過の概要等

宿泊者も従業員も、誰もが気持ちよく過ごせる宿泊施設に 相談窓口

旅館業の営業者側が宿泊拒否等について悩んだ場合は、自治体やその他の相談窓口にご相談ください。

連絡先など詳細は、厚生労働省のホームページをご覧ください



旅館業法改正（令和5年12月13日）の主なポイント

○宿泊拒否事由の追加

カスタマーハラスメントに当たる特定の要求を行った者の宿泊を拒むことができることとされました。・・・①

【具体例】

- ・宿泊しようとする者が、宿泊サービスに従事する従業員に対し、対面や電話、メール等により、長時間にわたって、又は叱責しながら、不当な要求を繰り返し行う行為
- ・宿泊しようとする者が、宿泊サービスに従事する従業員に対し、宿泊料の不当な割引や不当な慰謝料、不当な部屋のアップグレード、不当なレイアウトチェックアウト等、他の宿泊者に対するサービスと比較して過剰なサービスを行うよう繰り返し求める行為 等



ただし、障害のある方が社会の中にある障壁（バリア）の除去を求める場合等は、新たに宿泊拒否できる事由には該当しません。

【具体例】

- ・フロント等で筆談でのコミュニケーションを求めること
- ・車椅子利用者がベッドに移動する際に介助を求めること 等



○感染症防止対策の充実

- ・特定感染症（※）が国内で発生している期間に限り、旅館業の営業者は、宿泊者に対し、その症状の有無等に応じて、特定感染症の感染防止に必要な協力をもとめることができることとされました。
- ・既存の宿泊拒否事由の1つである「伝染性の疾病にかかっていると明らかに認められるとき」が「特定感染症の患者等であるとき」と明確化されました。・・・②
- （※）感染症法における一類感染症、二類感染症、新型インフルエンザ等感染症、指定感染症（入院等の規定が準用されるものに限り）及び新感染症
- ・宿泊者名簿の記載事項として「連絡先」が追加され、「職業」が削除されました。

○差別防止の更なる徹底等

特定感染症のまん延防止対策の適切な実施や特に配慮を要する宿泊者への適切な宿泊サービスの提供のため、従業員に対して必要な研修の機会を与えるよう努めなければならないこととされました。

なお、営業者は、当分の間、①、②のいずれかで宿泊を拒んだときは、その理由等を記録し3年間保存するものとされました。

○事業譲渡に係る手続きの整備

事業譲渡について、事業を譲り受ける者は、承継手続を行うことで、新たな許可の取得を行うことなく、営業者の地位を承継するものとされました。

詳細は、厚生労働省のホームページをご確認ください →



保健所等への届出等について

施設の名称や構造設備等の申請事項に変更が生じたときは、保健所への届出が必要です。また、施設の構造設備を変更するときは、改修計画の内容が分かるもの（図面等）をご準備の上、事前に保健所へご相談ください。

ご相談先は、府のホームページ等で確認できます →

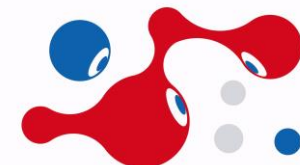


本リーフレット発行

大阪府健康医療部生活衛生室環境衛生課
大阪府健康局健康推進部生活衛生課

令和5年12月13日
旅館業法の改正の主なポイント

施設の新規届出や、
変更などの窓口



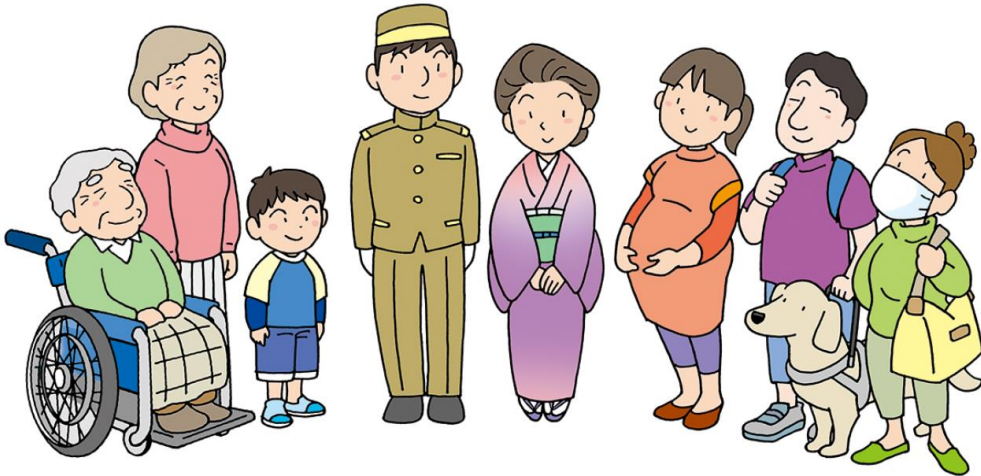
宿泊拒否について、
詳細は、厚生労働省のホームページをご確認ください。

厚生労働省

旅館業法改正の概要 研修ツール・周知ポスター 相談窓口

令和5年12月13日から旅館業法が変わりました！

～ 宿泊者も従業員も、誰もが気持ちよく過ごせる宿泊施設に ～

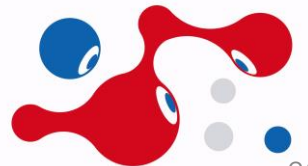


厚生労働省のホームページQRコード



厚生労働省のホームページ

<https://www.mhlw.go.jp/kaiseiryokangyohou/>



～宿泊事業を運営されている方へ～

- ▶ 施設内で集団感染が疑われる場合や風呂等の水質検査でレジオネラ属菌が検出された場合等は、保健所に報告が必要です。
- ▶ 本講習会のスライドを配布しておりますので、受講されていない従業員の方へ伝達研修をお願いします。

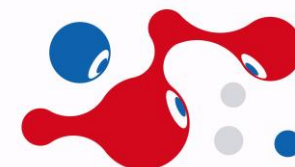
旅館業法第3条の5第2項(抜粋)

営業者は、従業者に対して必要な研修の機会を与えるよう努めなければならない

特区民泊

1泊2日で宿泊させることは出来ません。

● 宿泊には、申請時に提出した契約書を使用すること



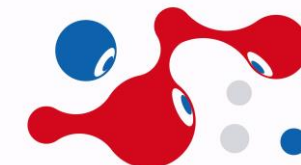
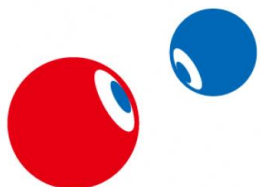
～宿泊事業を運営されている方へ～

住宅宿泊事業法

- ▶ 人を宿泊させる日数は、1年間で180日を超えてはいけません
(4月1日正午から翌年4月1日正午までの期間)
- ▶ 2カ月に1回「人を宿泊させた日数」を行政に報告が必要です。
(例:10月、11月の「人を宿泊させた日数」⇒12月15日までに報告)

～宿泊事業を始めようとする方へ～

想定する宿泊事業が実施できるか、事前に関係する機関(保健所、消防署、建築関係 など)に相談をお願いします。



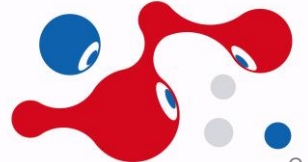
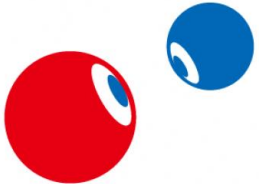
～本講習会の質問～

- ▶ 本講習会に関する質問は、配布してる資料に同封している質問受付フォームにより受け付けます。
- ▶ 回答は、すべての講習会終了後、令和7年3月末から4月頃にホームページにて行います。

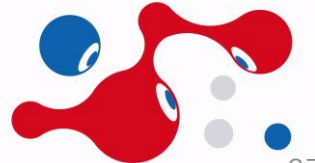
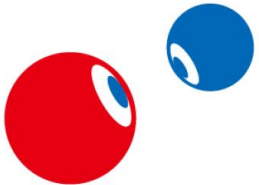
～同封しているステッカー～



ご清聴ありがとうございました

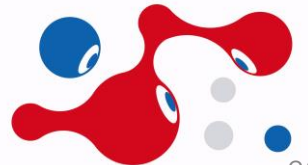
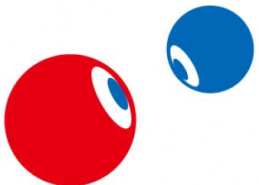
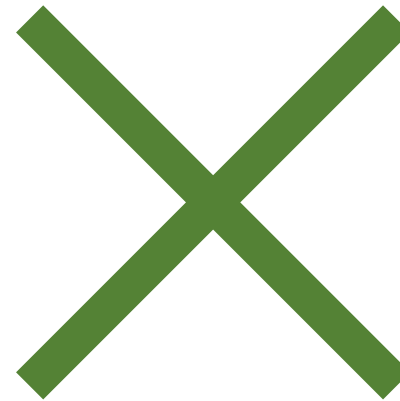
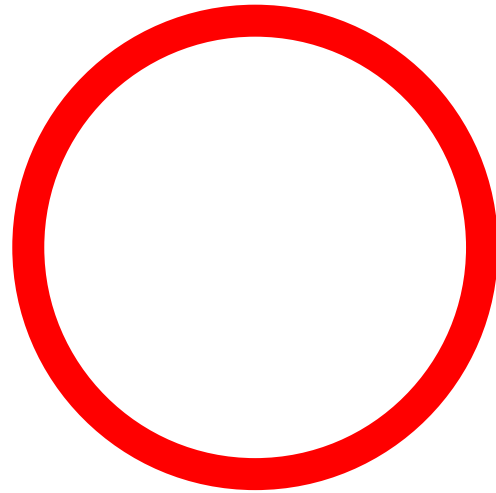


クイズ



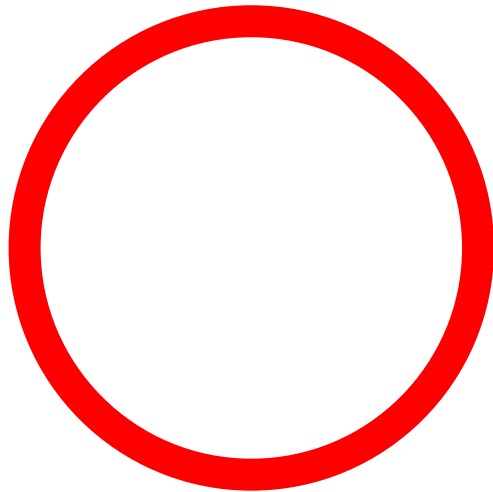
リネン類の保管

Q1. 日頃から、シーツやまくらカバーなどのきれいなリネン類を宿泊者数以上準備し、リネン庫で使用済みと分けて保管している。

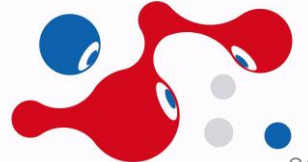
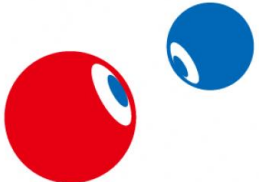


リネン類の保管

Q1. 日頃から、シーツやまくらカバーなどのきれいなリネン類を宿泊者数以上準備し、リネン庫で使用済みと分けて保管している。



A1. リネン類は、宿泊者数以上を準備しましょう。
リネン庫は、使用前と使用済みのものは分けて保管しましょう。
また、床に直接触れないよう、スノコなどを使用することが望ましいです。

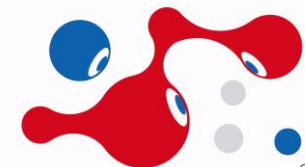
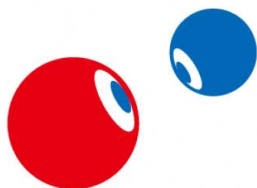


リネン類の保管

未使用のシーツ類を床に置かず、
ラックの上で管理

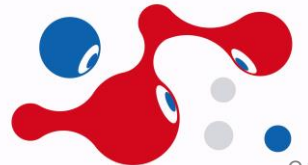
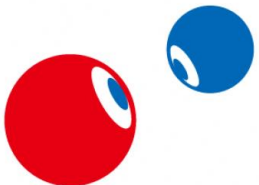
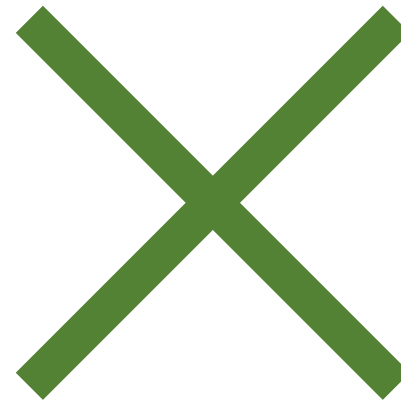
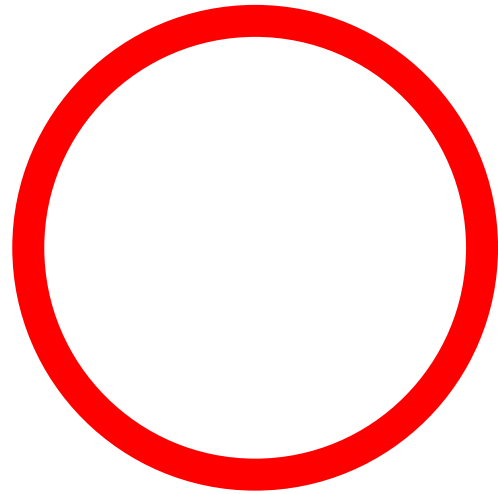


手前のカートに使用後のシーツ類をいれ、
奥のワゴンで未使用のシーツを管理



苦情や緊急時の対応

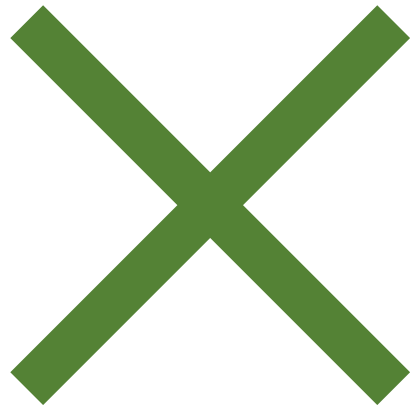
Q2.施設周辺からの苦情相談については、朝9時から夕方5時まで
窓口を設置している。
また、宿泊者からの緊急時の連絡についても、同様に対応している。



苦情や緊急時の対応

Q2.施設周辺からの苦情相談については、朝9時から夕方5時まで窓口を設置している。

また、宿泊者からの緊急時の連絡についても、同様に対応している。



A2. 施設周辺からの苦情相談窓口は、24時間体制をとることが必要です。
また、現場に急行する必要がある場合に備え、10分程度で駆けつけることが出来る体制を整えてください。

